

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072300229		
法人名	株式会社 彩華舎		
事業所名	グループホームさいか Aユニット		
所在地	群馬県高崎市吉井町矢田669		
自己評価作成日	平成24年12月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成24年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①ホームの中庭に畑を設け、利用者様との植え付け・栽培・収穫を行い、実際の食事に提供することで季節を感じて頂けるようにしています。</p> <p>②定期的に行われている老人会会長や地域の主催のイベント(人情喫茶)に参加させて頂いたり、ホームでの行事の際には近隣住民の方にも参加して頂き、関係作りに努めています。</p> <p>③サービス向上の為に職員教育に目を向け、まず職員ひとりひとりの特性を知り、組織全体で教育に取り組む体制作りを行っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、協力医の月1~2回の往診の他、かかりつけ医の往診もあり、医療面での幅広い協力関係のなか、安心した日常生活確保の支援が行われている。通院は現状職員対応となっているが、家族のみの対応の際は、受診時に事業所として、入居者の状況等を記載した書面を家族に託すことで、適切な医療が受けられるよう支援し、相互に受診結果等については話し合われるなど、情報の共有が図られている。協力医による重度化の判断により、今後のアドバイスを受けながら、これからの入居者の支援方法等について、家族と話し合いがなされている。また、災害時にあたっての運営推進会議のメンバー対応の緊急連絡網が整備されており、このメンバーから広く地域に事態の発信も可能であり、不測の事態により一層備えられるよう準備が整えられている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	この一年で職員の入れ替わりがあり、理念の共有について、職員全体への浸透には至っていない。スタッフ会議で、理念について理解するように話し合いを行うようにする。	5年前に理念を改め、「入居者を尊重し、充実感や満足感が得られる生活が送れるように支援する」趣旨の理念を掲げている。管理者は、スタッフ会議で、理念にある一つひとつの言葉の意味を職員に説明し、理念の実現にむけて取り組んでいきたいと考えているが、現在多数の職員の異動等があり課題となっている。	理念の持つ意味について、職員間で常に話し合われ、一人ひとりの共有化に努力されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年二回の地域清掃に協力させて頂いたり、毎月開催されている地域サロンの「人情喫茶」にも入居者様と共に出来る限り参加している。また、花いっぱい運動にも参加させて頂いている。	地域の相談役になれる事業所を目指している。現在は、年2回の地域清掃への管理者の参加や1ヶ月に1回の地域サロンへ入居者が参加(2~4名)することでの地域交流が行われている。今後、事業所の職員で認知症サポーター養成講座の寸劇を行い、地域貢献したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	吉井支所の依頼にて、認知症サポーター養成講座の寸劇にも参加をさせて頂いた。また、運営推進会議でも、疑問や相談にも受け答えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーの方々に、避難訓練に参加してもらい、意見を頂いたり、日常の様子を報告する中で意見交換している。意見を頂いた事については、スタッフ会議や日常的にスタッフへ伝えている。	会議は、避難訓練や運動会の行事と同時に開催して、参加メンバーの方に入居者の顔を知ってもらい、無断外出の際等に一人でも協力してもらえるようにしている。	今後、さらに参加メンバーからの意見をサービス向上に活かした会議となるために、人選の再考とともに、会議内容についても検討されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に活動報告書を資料として使用し、事業所の情報を伝える様になっている。	市担当課を相談窓口として、行事報告や事故報告の提出の他、入居者の状況や職員状況など現状を伝えている。市担当課からの、認知症サポーター養成講座の寸劇の協力依頼に、管理者が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	死角となる玄関の施錠を行っているが、外に出たい希望がある時は解錠して散歩に付き添う様になっている。また、中庭の畑を活用したり、天気の良い日に外でお茶会をする等し、閉塞感がない様に配慮している。	限られた空間である建物自体が拘束であると認識している。家族にはリスクについても説明するとともに、対応策として、布団や居室の入り口に鈴をつけるなどの工夫がされている。玄関の施錠等についても、それに頼ることなく、その前に入居者の行動に気づくことを職員に指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職して1年未満の職員が多く、社内研修や日常的に職員と話すようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて成年後見制度の利用を家族に進言している。また、実際に制度を利用している方もいる為、職員間で話し合いを行う事もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面にてゆっくりと説明し、疑問点や不安があれば尋ねる様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からのご意見については、苦情受付簿に記載し、スタッフ会議で話し合い、対応方法を文書化し共有できるように取り組んでいる。また、面会時には常に状態報告を行い、ご家族からのご意見や要望を聞くようにしている。	家族の意見が言いづらい気持ちを常に意識するように職員に指導し、毎月担当職員から、事業所の「はな便り」と一緒に、入居者の様子を手紙で渡している。また、重度化により、家族と一緒に食事する機会も失われがちなことあり、家族の来所の際には、お昼を一緒に食べてもらえるような声かけを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議には、スタッフ全員が参加出来る様に配慮し、話し合いを行っている。また、会議以外でも申し送りや職員間の情報交換などを行い、意見の聞き取りを行っている。	毎月のスタッフ会議では、入居者の処遇等について話し合われているが、職員の経験年数が浅いため、2ユニットの管理者とリーダーとで業務改善を話し合っている。今後は職員個々の資質にあった研修参加を通して育成に努め、将来的には職員の意見を活かした運営に努めたいと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績により昇格や異動による昇給を行っている。また、資格取得の為の後押しなどにも配慮し、社内研修や教育制度などの整備を進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加する機会を設けたり、社内研修で新入職員研修や入職後も研修と職員面談を取り入れ、アドバイスをするようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列施設のイベントには職員も参加できるように配慮し、交流を深めている。また、系列施設と職員同士の交換研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族や担当のケアマネージャーから事前情報を頂く様にし、面接を通して信頼して頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用希望の際は、まず見学に来て頂き、実際のホームの様子を観てもらっている。その際に、現状での困っている事や不安な事の聞き取りを行う様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に、他のサービスが必要と判断した場合は、他事業所を紹介したり、連絡を行ったりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存機能が活かされる処遇計画を作成し、実行している。また、利用者様には個別に担当職員を作り、日常の様子からの発見や生活史の把握に努め、サービスに反映出来る様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当スタッフが記入した手紙や面会の際にご本人の様子を出来るだけこまめに伝え、協力して頂ける様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人の方が来られた際は、いつでも面会に来て頂ける様に勧めている。また、ご本人と一緒に写真を撮ってもらい、関係継続を支援している。	近所の方や友人の訪問は、その人の歴史が見られるよい機会と考えている。家族との関係性の構築のために家族会の設置や、近所の方との一層の関係継続の施策などを今後の課題としている。来所時には写真を撮影し、居室に飾ったり家族に渡し、関係性を大切にしたい支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席など利用者様同士の人間関係にも考慮する様にしている。また、利用者様同士の会話が成り立つように支援したり、家事作業等も一緒に出来る様にし、関係構築の支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先の病院にお見舞いに行ったり、ご家族から相談の連絡があれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を感じ取り実行する事を基本姿勢にしている。スタッフ会議や日常的にあるスタッフ間の話し合いの中で、把握や検討を行っている。	日常生活上、意味のない行動や発言はないという考えから、その方の表現する奥にあるものを捉えるように指導している。職員がひとりよがりの判断にならないように、その人の普段と違うことに、職員が気づき、伝え合い、検討するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後もご家族から情報収集を行い、処遇に取り入れる様にしている。また、収集した情報を担当スタッフを通じて活かせる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録にご本人の過ごし方や、心身状態などが把握出来るような記録の付け方を指導している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを毎月行える介護計画書の様式を作成し、ご家族へ直接、説明している。その際、ご家族からの意見があった場合には聞き取り、その場で記載している。また、日々の生活記録やスタッフ会議、主治医の意見等を取り入れて、介護計画書を作成している。	その人がわかる生活記録の作成に努め、人物像がとらえやすい書式の検討を重ねている。職員の介護意識と入居者をより知ろうという気持ちを育てるために担当職員制を設け、すべての職員の意見を活かして、介護計画を作成したいと考えている。介護計画は、家族に直接会い1~2時間かけて説明して、同時に意見等を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況をできるだけ具体的に記載し、情報として活かされるようパソコン上で観覧しやすいよう管理している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば受診の送迎を行ったり、必要な物品の購入や買い物に付き添うなどの対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の地域サロンなど、馴染みの場所へ出掛ける機会を確保するほか、地域の慰問ボランティアや週末には近隣の方がボランティアに来てくれる等、地域との繋がりが利用者様に良い影響がある様に配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の定期往診をして下さる掛かり付け医があり、その他、随時、受診が必要な時には職員が対応。近隣に住んでいるご家族が居る場合には、ご家族が対応している。また、家族から要望があれば、一緒に付き添い受診も行っている。	協力医とかかりつけ医の受診割合は半々であるが、通常通院は現状は職員対応となっているが、家族による受診の場合には、日中の様子を記載した書面を託して、適切な受診を促している。事業所の協力医による月2回の往診やその他の医師の往診があり、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回来てもらっている看護師に健康面で相談したり、助言をもらっている。また、主治医の指示により訪問看護が来所した際にも、こまかく状態を報告し、相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、職員が同行し介護計画書の提供や生活状況を報告している。入院中は、面会に行き状態を聞く様にしている。退院後の対応については、主治医に相談し、必要であれば病院、家族を交えてカンファレンスを行う様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人とご家族の要望を基本姿勢として、出来るだけ要望に応えられるように、主治医とも相談をして対応している。	職員体制・医師との連携・家族の協力、すべてが揃って後、看取りを行うこととしている。現在は、職員の入れ替わりがあり体制が整っていない。これまでに看取りを行っており、家族・医師・訪問看護・福祉用具の関係者で話し合いを行っている。食事が食べられなくなった事態等で、医師から状況をみながら早く家族と相談するように指導を受けて実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルや連絡方法を周知している。救急車の呼び方の指導や普通救命救急の講習に職員に参加してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を行っており、消防署職員の方にも参加して頂いている。運営推進会議のメンバー用の緊急連絡網を作成し、避難訓練時に参加して頂いている。	年2回、消防署の指導を受け昼夜を想定して訓練を行なっている。運営推進会議のメンバーの緊急連絡網を作成し、災害時には交通整理や入居者の見守りをお願いしている。震災以降、レトルト食品2日分を備蓄している。また、運営推進会議メンバーの意見を活かし、近隣の方の緊急避難場所となるよう検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議や研修に参加するなど、入居者の立場に立ち、プライバシーを損なわないような支援を行える様に努めている。	人生の先輩であることを常に意識して、こちらの感覚で馴れ馴れしくならないよう指導している。言葉かけも、毎日接していても顔なじみの関係ではないので、失礼のないように心がけるようにしている。また、基本的な姿勢として、「させていただく」という気持ちで接するようになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の発言内容を生活記録に残すなど、ご本人の発言を重要視している。また、認知症状での問題行動という捉え方をなくし、ニーズの表出と捉えられる様に指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事時間なども、ご本人の体調やリズムを考慮して少人数ならではの対応を出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力で、馴染みの美容院を利用する方もいる。化粧などを好んでされる方は綺麗に仕上がる様にお手伝いさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで栽培した野菜と一緒に調理したり、食事に提供している。また、食後には下膳や食器洗いなどを職員と共に行っている。	業者による献立で、食材が届けられ、職員が調理している。毎日、職員と同じ食事を同じ時間に摂ることを基本としている。入居者によっては何を食べているかわからない方もいるので、職員は食材や味付けなどを会話に取り入れながら食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が一目で確認できるように、ワークシート内に水分摂取量を記録する欄を設けている。糖尿病の方には、ご家族に協力して頂き、ノンカロリーの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアがしっかり出来ているか、一人一人口腔内を確認し、再度違う職員にも確認作業を行い、出来ていればチェックリストに記入する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔から出来るだけ、トイレでの排泄が行える様に誘導、声掛けを行っている。夜間にはオムツやポータブルトイレを使用している方も居るが、日中はトイレを使用出来る様に支援している。	基本的におむつをしないように支援している。できるだけトイレに行けるように、居室に手すりを設置したり、入居者の動きを察知したりして、トイレでの排泄を支援している。自尊心に配慮して、排便状況や尿量を確認する際には、その際の音や居室での介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握する様に努めたり、飲水量や体調から、主治医に報告し、下剤の調節を行っている。また、排便が困難な方には腹部マッサージを定期的に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午前と午後に行っているが、その他にも希望があれば、その方にあった時間に入浴が行えるように努めている。	入浴は、本人を一層知ることのできる機会として、コミュニケーションを図り、申し送りの大事なテーマとしている。週2回、午前・午後を入浴とし、入浴時間は、身体的状況に配慮して、本人が出来ない部分の介助で満足してもらえるよう支援している。羞恥心に配慮して、他の利用者と顔をあわせないようにカーテンを設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況や体調の変化を把握し、適切な休息が確保出来る様に努めたり、不眠の際は添い寝をしたり、事務所にてスタッフと一緒にお茶を飲んだりし、安心して入眠出来る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルに綴り、確認出来る様にしてあり、受診記録の共有などで、スタッフ一人一人が薬の目的や副作用、薬剤の変更などを確認出来る様にしてしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑をされてきた方が多いので、野菜作りを行ったり草むしりを行ったりと、昔から馴染みのある活動を取り入れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見など、季節に応じた行事の計画、実施を行っている。また、ホームの買い物と一緒に行ってもらったり、地域行事などにも出掛けられる様に支援している。	天気の良い日は散歩をしたり、玄関前の草むしりをしたりしている。また、買い物に利用者2~3名といっしょに外出することもある。花見などは入居者全員で外出している。	五感刺激の機会として、日常的な個々の外出支援の方法を検討されるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状で、利用者様自身が現金管理されている方はおらず、個人の購入品はホームが立て替えたり家族に頼んだりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が書いた手紙を出したり、書いた物を面会時などに観て頂く様に支援している。電話では、事前に家族の方に連絡していい時間を聞いて、その時間になったら掛けられる様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭に花や野菜を植えたり、ホーム内にも花を飾ったりしている。七夕や十五夜、クリスマスなど、一緒に飾り付けや準備をして頂き、季節感を感じて頂ける様にしている。	中庭からの採光が明るい。中庭に野菜を栽培し、その成長を入居者に楽しんでもらっている。また、季節の飾り物や外出時の写真などを掲示し、寛いだ空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にソファを設置し、気の合う利用者様同士、会話ができる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ、ご本人が使っていた品物やご家族の写真など思い出の品を持ち込んで頂ける様にしている。配置もご本人と確認しながら設置している。	居室は自由に使っていただき、椅子やテーブルを持ち込んだり、写真を飾ったり、自室に近い居室づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物など干せる方は自分で干してもらえように高さを調節出来るようにしている。		